

56 隅田公園

関東大震災後の帝都復興計画で造られた公園。現在は各区の区立公園。

所在地
台東区花川戸1番地、墨田区向島一・二・五丁目

台東区
景観重要公共施設



地図E-4

33 清洲橋

ドイツ・ケルンのライン川の吊橋をモデルとして、関東大震災後に架けられた橋。

所在地
中央区日本橋中洲地内から江東区清澄一丁目地内まで

国指定重要文化財
(建造物)



地図D-7

32 永代橋

関東大震災の後に架け替えられた橋。

所在地
中央区新川一丁目地内から江東区永代一丁目地内まで

国指定重要文化財
(建造物)



地図D-8

31 勝鬃橋

第二次世界大戦前に架けられた橋。跳開橋として造られた。

所在地
中央区勝どき一丁目地内から中央区築地六丁目地内まで

国指定重要文化財
(建造物)



地図B-10

22 旧浜離宮庭園 (浜離宮恩賜庭園)

江戸時代以来の歴史のある、水面に囲まれた庭園。現在は都立庭園。

所在地
中央区浜離宮庭園

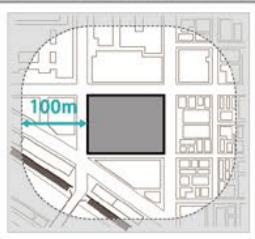
国指定特別名勝・特別史跡



地図A-10

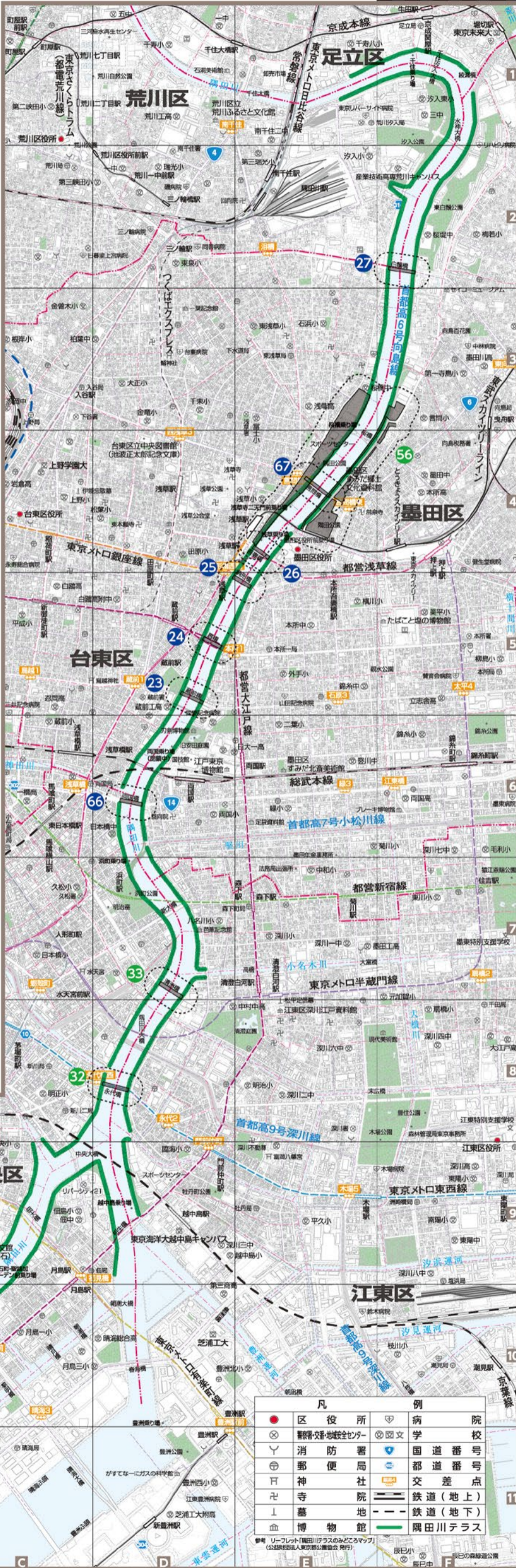
【凡例】

- 対象物
 - 東京都選定歴史的建造物
 - 特に景観上重要な歴史的建造物等(建造物や公園など)
- 指針を適用する範囲(対象物から100mの範囲)



1:30,000

メッシュ(格子)間隔:1km×1km



凡例	
●	区役所
⊗	警察交番・地域安全センター
Y	消防署
〒	郵便局
卍	神社
卍	寺院
⌒	墓地
血	博物館
⊗	病院
⊗	文学学校
⊗	国道番号
⊗	都道番号
⊗	交差点
—	鉄道(地上)
- - -	鉄道(地下)
—	隅田川テラス

27 白鬚橋

鋼橋で骨太な感じが永代橋と似通った橋。

建設年
昭和6(1931)年

設計者
施工者不詳

所在地
台東区橋場二丁目地内から墨田区堤通二丁目地内まで

地図F-2



67 言問橋

関東大震災後の帝都復興計画で初めて架設された橋。

建設年
昭和3(1928)年

設計者
復興局

所在地
台東区浅草六丁目地内から墨田区向島一丁目地内まで

地図E-4



26 吾妻橋

関東大震災の後に架け替えられた橋。

建設年
昭和6(1931)年

設計者
東京市

所在地
台東区花川戸一丁目地内から墨田区吾妻橋一丁目地内まで

地図E-4



25 駒形橋

橋の中央部と左右の床板の下側にアーチのある橋。

建設年
昭和2(1927)年

設計者
復興局 岩切良助

所在地
台東区雷門二丁目地内から墨田区東駒形一丁目地内まで

地図E-5



24 厩橋

優美な3つの曲線が連なる橋。

建設年
昭和4(1929)年

設計者
東京市

所在地
台東区蔵前二丁目地内から墨田区本所一丁目地内まで

地図D-5



23 蔵前橋

関東大震災の後に架け替えられた橋。

建設年
昭和2(1927)年

設計者
復興局 井浦玄三

所在地
台東区蔵前二丁目地内から墨田区横網二丁目地内まで

地図D-5



66 両国橋

相撲を意識した意匠が特徴の橋。

建設年
昭和7(1932)年

設計者
東京市

所在地
中央区東日本橋二丁目地内から墨田区両国一丁目地内まで

地図D-6





水神大橋付近(千住曙町から)



隅田公園(台東区・墨田区)



吾妻橋(駒形橋から)

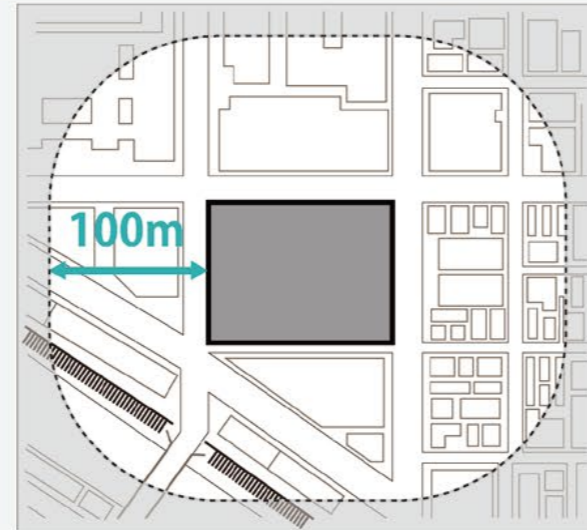


両国橋北側(両国側から)

歴史的な資源を生かした景観づくり

建物の素材や色彩、デザインなどにより、街並みや周囲の景観は大きく影響します。歴史的な建物等の周辺の景観を守り、育てるために、東京都では「歴史的景観保全の指針」を定めています。指針を適用する範囲内で建築行為などを行う際は、景観への配慮をお願いします。

指針を適用する範囲の考え方



- 対象物**
 - 東京都選定歴史的建造物
 - 特に景観上重要な歴史的建造物等(建造物や公園など)
- 指針を適用する範囲(対象物から100mの範囲)**

印刷物規格表 第 4 類
印刷番号 (30) 85

東京都選定歴史的建造物と
特に景観上重要な歴史的建造物等
隅田川ライン

平成 31 年 3 月発行

編集・発行 東京都都市整備局都市づくり政策部
緑地景観課
新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5388-3359

印刷 北海道地図株式会社



東京都選定歴史的建造物と 特に景観上重要な歴史的建造物等

隅田川 ライン



「東京名所之内兩國橋大火火之真圖」
豊原周春 1887年
都立中央図書館特別文庫室所蔵



「向島桜」
井上安治 明治期
都立中央図書館特別文庫室所蔵

隅田川ラインの歴史と周辺の街並み

隅田川の流れは、東京東部の低地において、神田川・小名木川などの中小河川とつながりながら東京湾まで続いています。時代や場所により「大川」「荒川」「浅草川」など様々な名で呼ばれ、中世に編まれた「伊勢物語」に登場するなど、古くから知られています。

戦国時代末期、天正18(1590)年に徳川家康が江戸に入った後から江戸時代まで、隅田川及び周辺の中小河川は、現在の姿に近い形で整備されました。隅田川には、千住大橋や両国橋など五つの木橋が架けられ、災害による流失・焼失や落橋(永代橋)などによる架け替えを経つつ、人々に利用されました。

江戸時代、隅田川沿いには幕府の御蔵や河岸・物揚場などが設けられ、江戸湊や上流からの物資の受け入れ地となりました。また、至近にある多数の著名な寺社は参詣者で賑わい、川沿いは行楽地として桜、舟遊び、花火などの名所になりました。

明治時代に入り、隅田川沿いは、行楽地である一方で、セメント工場・紡績工場・ピール工場などのある近代的な工業地域にもなりました。大正12(1923)年の関東大震災後の復興事業では、多くの橋や隅田公園の整備が行われました。昭和5(1930)年には上流部に荒川放水路が完成し、降雨による水害はみられなくなりました。

第二次世界大戦後の高度成長期、隅田川は、防潮堤建設、水質汚濁、花火大会中止、首都高速道路建設などを受け、人々の関心からは疎遠な時期もありました。

現在の隅田川沿いは、水質が改善し、テラス護岸などが整備され、誰もが水と緑とともに楽しめる空間となっています。

隅田川ラインの歴史的建造物等

隅田川ラインでは、関東大震災後の帝都復興事業により建設・整備された橋梁群や公園など、多くの歴史的建造物等を見ることができます。

東京都では、歴史的建造物のうち景観上重要なものについて「東京都選定歴史的建造物」として選定し、文化財や公園などを「特に景観上重要な歴史的建造物等」に定めています。

<参考文献>

- 中央区史 上巻(東京都中央区役所)
- 台東区史 通史編Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(東京都台東区)
- 墨田区史(東京都台東区役所)
- 江東区史 中巻(江東区)
- 北区史(東京都北区役所)
- 新修北区史(東京都北区役所)
- 荒川区史 下巻(東京都荒川区)
- 荒川下流史/本編(荒川下流史編纂委員会、(財)リバーフロント整備センター、山海堂)
- 日本古典文学大系9 竹取物語 伊勢物語 大和物語(岩波書店)
- 日本古典文学大系37 義経記(岩波書店)
- 東京都政五十年史 通史(東京都)
- 都史紀要25 市区改正と品海築港計画(東京都)
- 都史紀要35 近代東京の渡船と一銭蒸気(東京都)
- 中央区文化財調査報告書 第5集 中央区の橋・橋詰広場—中央区近代橋梁調査—(東京都中央区教育委員会社会教育課文化財係)
- 百年史(日本セメント(株))
- サッポロビール130周年記念誌(サッポロビール(株))
- アサヒビールの120年(アサヒビール(株))
- 東京公園文庫32 東京の公園通誌 下(末松四郎著、東京都公園協会監修、郷学舎)
- 東京公園文庫40 隅田公園(川本昭雄著、東京都公園協会監修、郷学舎)



この地図は、国土地理院長の承認（平 24 関公第 269 号）を得て作成した東京都地形図（S=1:2, 500）を使用（31 都市基交第 794 号）して作成したものである。無断複製を禁ずる。